

令和 6 年 8 月 16 日

令和 5 年度 特別の教育課程の実施状況等について

沖縄県		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
糸満市立糸満小学校（外 4 校）	糸満市教育委員会	公立

1. 学校における特別の教育課程の編成の方針等に関する情報

学 校 名	特別の教育課程の編成の方針等の 公表 URL
糸満市立糸満小学校	http://itomans.school.city.itoman.okinawa.jp/kaiyoukyouiku.html
糸満市立糸満南小学校	http://itomanms.school.city.itoman.okinawa.jp/kaiyoukyouiku.html
糸満市立高嶺小学校	http://takamines.school.city.itoman.okinawa.jp/kaiyoukyouiku.html
糸満市立糸満中学校	http://itomanc.school.city.itoman.okinawa.jp/policy.html
糸満市立高嶺中学校	http://takaminec.school.city.itoman.okinawa.jp/kaiyoukyouiku.html

2. 学校における自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学 校 名	自己評価結果の公表 URL	学校関係者評価結果の公表 URL
糸満市立糸満小学校	http://itomans.school.city.itoman.okinawa.jp/kaiyoukyouiku.html	http://itomans.school.city.itoman.okinawa.jp/kaiyoukyouiku.html
糸満市立糸満南小学校	http://itomanms.school.city.itoman.okinawa.jp/kaiyoukyouiku.html	http://itomanms.school.city.itoman.okinawa.jp/kaiyoukyouiku.html
糸満市立高嶺小学校	http://takamines.school.city.itoman.okinawa.jp/kaiyoukyouiku.html	http://takamines.school.city.itoman.okinawa.jp/kaiyoukyouiku.html
糸満市立糸満中学校	http://itomanc.school.city.itoman.okinawa.jp/policy.html	http://itomanc.school.city.itoman.okinawa.jp/policy.html
糸満市立高嶺中学校	http://takaminec.school.city.itoman.okinawa.jp/gakkohyouka/gakkohyouka.html	http://takaminec.school.city.itoman.okinawa.jp/gakkohyouka/gakkohyouka.html

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

☒ 計画通り実施できている

・ 一部、計画通り実施できていない

- ・ほとんど計画通り実施できていない

(2) 実施状況に関する特記事項

なし

(3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

・実施している ・実施していない
--

<特記事項>

学校ホームページに教育課程特例校の編成の方針等や昨年度の実施状況及び評価を掲載し、保護者や地域住民等への情報提供として行っている。

4. 実施の効果及び課題

(1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している目標との関係

本特例は、本市の先人たちが築き発展させてきた独自の海洋文化の歴史を学び、体験活動を通して、自分の地域を知るとともに、「海」を教材として現代社会の課題を自らの問題として捉え、課題の解決につなげ、地域や社会の発展に貢献でき、誇りの持てる人材の育成を目指して「海人科」の設置を行うものである。

本年度、本特例を実施している糸満小学校、糸満南小学校、高嶺小学校3校と実施していない7校について、全国学力・学習状況調査の質問項目を比較したところ「設問25 地域や社会をよくするために何かしたいと思いますか。」の質問に対して、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と肯定的に回答した児童の割合は、実施校が80.4%に対して未実施校が79.2%と+1.2%高まった。また、本特例を実施している糸満中学校、高嶺中学校の2校と未実施校の4校について、小学校同様に同じ設問で比較すると、実施が76.9%に対して未実施が72.9%と+4.0%高まった。海洋教育を取り入れることで地域への愛着や地域貢献を高めることに一定の効果があったことを示唆している。

一方で、体験活動に偏った教育課程になっている点が課題として挙げられる。今後は、体験活動だけでなく、学んだことを深めるための探究活動や、他の地域との交流活動を取り入れることで、より深い学びへとつなげていく必要がある。

(2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

本特例を実施している小学校の3校と未実施校7校の比較および中学校の2校と未実施校の4校について、全国学力・学習状況調査の質問項目を比較したところ「設問30 授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた。」の質問に対して、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と肯定的に回答した児童・生徒の

割合は、小学校の実施校が 87.7%に対して小学校の未実施校が 88.0%と同等の値だった。一方、中学校の実施校では 90.7%、中学校の未実施校が 88.3%と+2.4%高まった。また、「設問 3 7 授業や学校生活では友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか。」の質問に対して肯定的に回答した児童・生徒は小学校の実施校が 73.0%、小学校の未実施校が 72.4%と+0.6%高く、中学校の実施校は 73.9%、中学校の未実施校は 72.3%と+1.0%高まった。そのような結果から、本特例を実施している学校では、「自ら考え、課題解決に取り組む力」や「友達との協働学習力」が向上している傾向が見られた。これは、海洋教育が、学校教育の目標である「主体的・対話的で深い学び」の実現に貢献していることを示唆している。

特に、中学校では、これらの力がより顕著に見られた。これは、中学校の学習内容がより高度になり、生徒たちが自ら課題を発見し、解決していく中で、海洋教育が大きな役割を果たしていると考えられる。

5. 課題の改善のための取組の方向性

4に示すような課題を踏まえて、「体験活動に偏った教育課程」の課題の解決に向けて、体験だけに留まらず、糸満市海洋教育副読本を効果的に活用した自発的に探究できるような活動やオンラインによる交流活動を充実させる。そのような活動の中で、自分たちの学びを発信する場を多く経験するとともに、取組のよさや糸満市の新たな海の発見等、海洋教育の学びの意義を感じさせるカリキュラムマネジメントが必要だと考える。今後の海洋教育のカリキュラムとしては、総合的な学習や特別活動に取り入れることとする。

また、コミュニティースクールや地域協働本部等と連携した海洋教育の教材および人材発掘を積極的に行い、地域学校が地域のさらなるよさを発見・発信することで持続可能な海洋教育になると考える。

海に囲まれた自然豊かな糸満市の学校で、海洋教育を介して、持続可能なよりよい糸満市の創り手を育成することを目指す。